

(ホームページ掲載用 周知文書)

「『骨シンチグラフィ』による人工関節周囲の感染の判定における後ろ向き観察研究」

●はじめに

人工関節のまわりに感染があるかどうかを判断するために、骨シンチグラフィ(放射性医薬品を注射してから特別な装置を用いて撮影を行い、病気のある骨に放射線医薬品がどれくらい集まっているかの判定を行う検査)を行う場合があります。本研究では、この骨シンチグラフィの結果が、感染の有無を正確に予測できるかどうかを検討します。

●研究対象

当院整形外科を受診し2012年5月1日から2017年9月30日までに骨シンチグラフィを行った方を対象にしています。症例数は200例を予定しています。

●研究内容と費用負担

整形外科で骨シンチグラフィを行った方の画像をもとに人工関節のまわりの感染の有無が判定可能かどうかを考察します。なお、この研究を行うことで患者さんに通常診療以外の余分な負担は生じません。

●個人情報の管理について

本研究では個人情報の漏洩を防ぐため、個人を特定できる情報を削除し、データの数値化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取っています。本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

●患者様がこの研究に診療データを提供したくない場合

整形外科を受診し2012年5月1日から2017年9月30日までに骨シンチグラフィを受けた患者さんで、この研究に診療データを提供したくない方は下記までご連絡下さい。

札幌医科大学附属病院 放射線診断科 山 直也

平日：TEL(011)-611-2111 内線35010

休日・時間外：fax(011)-613-9920(平日に連絡をいたしますので連絡先を明記下さい)

ただし、あなたが研究参加を取りやめたいと思った時点で、既に、研究結果が論文などに公表されている場合や、研究データの解析が終了している場合には、解析結果等からあなたに関するデータを取り除くこと出来ず、研究参加を取りやめることが出来なくなります。

●研究期間

病院長承認日から2019年3月31日まで

●利用する情報

カルテ情報：診断名、年齢、性別、身長、体重、血液検査の結果、手術や生検を行って判断

した人工関節のまわりの感染の判定結果

検体：新たに解析を行う検体はありません。

画像検査情報：骨シンチグラフィ

●医学上の貢献

研究成果は人工関節のまわりに感染があるかどうかを判断する診療の一助になり、治療法の選択の一助になるので患者さんの治療と健康に貢献できます。

●問い合わせ先

〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目 札幌医科大学附属病院

本院研究責任者 放射線診断学 山直也、同研究分担者 整形外科 舘田健児

平日：TEL (011)-611-2111 内線 35010 (放射線診断学教室)

休日・時間外：fax (011)-613-9920 (平日に連絡をいたしますので連絡先を明記下さい)